

研究計画

1 研究主題

「わかる」「できる」喜びを実感する学習活動の充実
～国語科を中心とした言語活動を通して～

2 主題設定の理由

本校は、一昨年度から全ての教科で、「子ども同士が意見をつなぎ学び合う授業」をめざし、授業改善に取り組んできた。その結果、子どもが自分の意見を持ち、発表することは少しずつできるようになってきている。しかし、考えの根拠を的確に相手に伝えたり、論理的に説明したりすることは難しく、学んだことを活用し、考えを深めるまでには至っていない。また、そのことから、自分の説明に自信がもてず、言語化することに苦手意識が強いため、子ども同士で「意見をつなげ、学び合う授業」がなかなかできていないことが、引き続き課題となっている。

そこで、本年度においても、昨年度と同様、ことばを大切にするという要素を継続しながら「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、昨年度の課題をもとに、更なる授業改善を図る。子どもの主体的な姿としては、「決められたことを進んでするというだけでなく、自ら問題解決に向けてどうすべきかを考え、行動する姿」とする。このことから、本年度の研究主題を、「わかる」「できる」喜びを実感する学習活動の充実」とし、まずは基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるようにしていく。そして学んだことを活用して、問題解決に向けて自ら考え、伝え合い、学び合うなかで、自分の考えを広げたり、深めたりする力を育成していく。そのために、子どもの学習状況や課題をきちんと把握し、丁寧な学習指導を行い、基礎基本の定着を図る。また、教師主導になりがちな現状から脱却し、子ども達が自分の考えをしっかりと生き生きと発言できる機会をつくり、その意見をつないで学び合う姿を引き出せるよう、それぞれの教科の授業で実践し、研究する。

子ども同士で学び合うには、言語活動が大切となる。そこで、サブテーマを【国語科を中心とした言語活動を通して】に設定した。国語科の「話す」「読む」「書く」「聞く」力は、全教科の学習において必要となる、身に付けなければならない力である。言語活動を、各教科の学習のねらいを効果的に達成するための手段とし、単元を見通して計画的に位置づけ、学習活動を充実させる。相手の考えや意見と同じところ、異なるところを把握し、そこから自分の考えを見つめ直すことで、考えが広がり、深まることにつながるのではないかと考えた。

そのためには、子ども同士が話しやすい雰囲気をつくり、自分と違った意見なども、子ども同士で認め合うなど、温かな学級づくりを日頃から意識して取り組むことが大切である。みんなで学び合いながら課題を解決する授業の展開となるよう、「自分の考えを伝えたい」「いろいろな考えがあってもいい」と感じられる授業づくりに取り組む。そのために、下記の研究内容にしっかりと取り組んでいきたい。

3 研究内容

(1) 取組の充実

- ・「わかる」「できる」を実感することができる授業
- ・自分の考えを持ち、書いたり聴いたりして、子ども同士でつなげる授業
- ・他者の考えと比較し、自分の考えが広がったり深まったりする授業

(2) 学び合いの場と思考力・判断力・表現力を育てる手立ての工夫

【学び合いの前提として】

- ・学び合いの素地をつくる（自他を認め合う学級作りと「求める授業像」）
- ・ことばを大切にしたい授業づくり（話す・聴く・つなげる）
- ・子どもが追究したくなる課題設定の工夫（興味・関心を引く課題・多様な考えを引き出せる課題など）
- ・自分の考えをわかりやすく説明する工夫（自分の考えを言葉や絵・図・式に表す）
- ・話し方・聞き方、話し合うためのスキルの獲得

【学び合いを活性化するために】

- ・自力解決時における個別指導の工夫
- ・問題解決型（気づく・見通しをもつ・学び合う・考えを深める）

- ・子ども同士がつながり授業、学習形態の工夫（個人・ペア・グループ学習）
- ・考える視点を明確にする発問や指示の工夫
- ・ノート指導の工夫（考えの跡を記述する）
- ・教師が適切な場が出る（しゃべりすぎない・子どもからの発言を待つ→意見をつなげる）

【学びを確かめるために】

- ・1時間での学びの成果が実感できるたしかめ問題の工夫や個人の記録（授業記録）
- ・評価テストや到達度調査、学習アンケートの分析による指導方法の改善
- ・学習指導と家庭学習のリンク（宿題・自主勉強の充実）

4 研究組織



5 研究方法

(1) 年間計画

月	内 容	月	内 容
4	教育計画の立案 全体研修（研究方法の確認・三部会からの提案） 全国学力学習状況調査の実施（6年）	10	自主勉強に向けて（1年） 県学習到達度調査の実施（4・5年）
5	自主勉強の充実（2年～6年） 学力補充開始（3年～6年）	11	学習アンケート調査および分析② 研究授業（6年）
6	研究授業（4年） 学習アンケート調査および分析①	12	職員意識アンケート調査② 県学習到達度調査の分析（4・5年） 研究授業（1年） 研究授業（5年）
7	職員意識アンケート調査①	1	CRTの実施（全学年） 全体研修（反省と課題）
8	研究会・講習会に参加 夏季研修（三部会からの中間報告） 夏期研修（発達障害理解、九小の子と取組報告）	2	全体研修（学力分析・研究の成果と課題） CRTの結果からの学力補充 評価テスト（5年）
9	研究授業（おおぞら学級B組）	3	研修（三部会からの報告・成果と課題） 研修のまとめ作成

(2) 研修方法

- ①研究授業や公開授業（定期的に行う）を実施するとともに、実践交流を行う。
- ②研究会や講習会に積極的に参加し、伝達講習を行う。
- ③学年部会で授業改善に向けて話し合い、教材研究を行う。

(3) 研修日

- ①原則として水曜日の午後、全校的な研修日をとる。
- ②部会別研究会と全体研修会を関連づけて行う。
- ③研究の手立てについては、研究推進委員会で企画する。